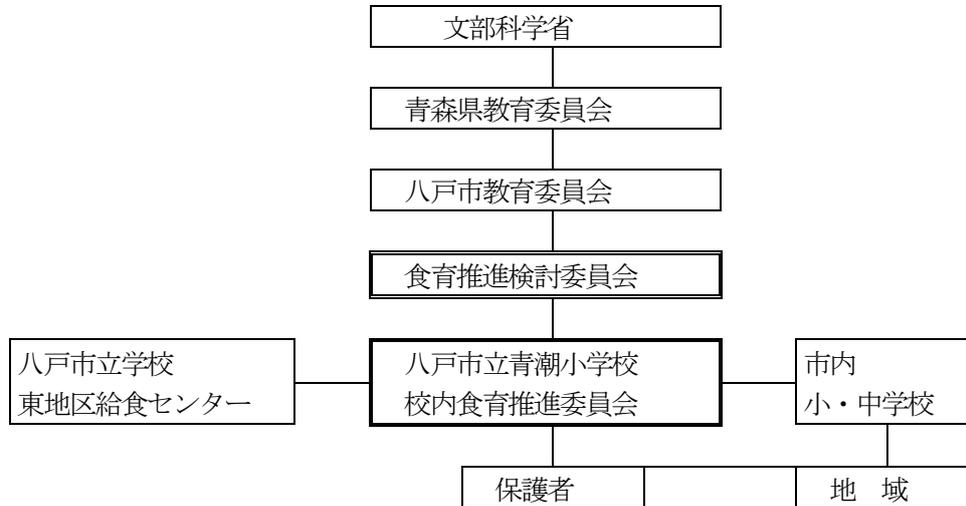


再委託先名

八戸市

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ1 学校と家庭の連携による食に関する指導の充実のための取組

① 食生活アンケートの実施（6月と2月）

アンケート～食専編～		
実施日 年 月 日		
年 組 (男女)		
1	食べることは好きですか	はい いいえ
2	主食ご飯、パン、めん、麺類、肉、魚、大豆・大豆製品以外のたんぱく質を食べていますか	はい いいえ
3	朝食は食べますか	はい いいえ
4	朝食はごはんを食べますか ごはんやパンと飲み物とおかず は食べて は食べて	番号を記入 ※が曜日を別欄に書き
5	朝食は食べますか(朝食のない日)	はい いいえ
6	夕食は食べますか	はい いいえ
7	おやつは食べますか	はい いいえ
8	地域(青森県)の知っている特産物はんなんですか 知っているものをすべて書いてください	
9	給食時間(昼)でからかまるまでは別給食ですか	給食
10	食に関することなどなんかが知りたいですか	

～ご協力ありがとうございました～

	6月	→	2月
食べることは好きか。	99%	→	100%
主食とおかずがそろった食事をしているか	92%	→	94%
学校のある日は毎日朝ごはんを食べているか	98%	→	96%
朝食には主食とおかずがそろっているか	40%	→	62%
給食のない日に昼ごはんを食べるか	100%	→	100%
夕食を食べるか	100%	→	100%
おやつを食べるか	92%	→	92%
地場産物で知っている物	りんご、長芋、ごぼう、にんにく、いか、さば、ホタテ、しじみ、マグロ、だけきみ など		

② 朝ごはんを食べる児童の増加のための取組

- ・作ってみよう私の朝ごはん（6年生の夏休みの宿題で実施）
- ・わが家の朝ごはんの自慢おかずコンクール
PTA専門委員会で調理と審査



③ 校内研修での食に関する指導の講演会

・学校歯科医 つきだて歯科 築館枝利子 院長を招いての講演会 10月31日



演題 「歯のはえかわり期におけるむし歯と栄養（食）の関係」

児童、教職員、保護者約 20 名

<保護者の感想より>

- ・歯の大切さ、歯磨きの大切さを改めて感じました。おやつとの与え方も大切ということを知りました。
- ・小さな頃からの歯の健康が大人になってからの病気の抑制にもなることがわかりました。
- ・あまり歯については考えてなかったのですが、食と関係があるものですね。これからは注意したいです。

④ 親子体験学習での体験

3年生 ひつつみと豆しとぎづくり 12月13日



ビニール袋の中でひつつみ作り



すりすり

はじめてのすり鉢とすりこぎ（見るのはじめての子もいました。）



5年生 ひつつみとみそおにぎりづくり 11月15日



こねこね

こちらもビニール袋の中でひつつみ作り



自分で握ったおにぎりに“手前みそ”をつけます。



5年生は家庭科の調理実習でも育てた米を使ってご飯を炊き、“手前みそ”でみそ汁を作りました。

① 検討委員の方を招いての招待給食会（11月15日）

ふるさと産品給食の日の献立。県産食品がいっぱいです。



② みそ製造業の方を講師に迎えてのみそづくり



蒸した大豆を機械でつぶしています。こうじ、塩、大豆をまぜています。

クラスで1つ。大きなたろに仕込みました。約半年ねかせます。

夏休み前に天と地を切り返しています。



できたあ

③ J A八戸の方を講師に迎えてのバケツ稲づくり



説明を聞いています。



どろんこになって苗を植えています。

秋：収穫



④ 地域の方を講師に迎えての郷土のおやつ（こびりっこ）づくり（1月）



地域の食育サポーター西山さんに郷土料理についてのお話を聞きました。



おいしそうにできた。



初“こびりっこ”に興味津々

テーマ1～2に共通する具体的計画

○児童の食生活の実態から見えてきた課題からの取組

- ・自然の恩恵、勤労などに対する感謝の心や食べ物を大切にする心を育てる指導
- ・朝食内容の充実のための指導
- ・食事のマナーの指導

給食委員会の児童による「青森のおいしい恵み（地場産品）」調べの掲示



なが〜い昆布

味の素KKによる出前授業「味覚教室」



かつお節削り

削るのむずかしいよ。

本事業における評価指標と考察

アンケート、昨年度地場産品調査、週報による数値（→後は当初の目標値）

- ① 朝食欠食率 1.3%→0%
- ② 地場産物活用率（県内産活用率）63%→65%（第2次青森県食育推進計画目標値）
- ③ 残食率 多いときで 16%→10%
- ④ ごはんとおかず、汁ものがそろっている朝食の割合 40%→50%

〈考察〉

- ・朝食欠食率については家庭環境により固定化しつつある。当初欠食率0%を目標としていたが2月アンケートでは毎日朝食を食べている児童は96%と6月より2%減っている。これは寒さのため、起きるのが遅くなり朝食を食べられなかったためと思われるが継続して朝食の必要性を訴えていく必要がある。
- ・ごはんとおかず、汁ものがそろっている朝食は2月アンケートの結果では62%となり、意識してきているように思われる。
- ・給食の残食は2, 3, 4, 5年生では顕著に減った。自然の恩恵、勤労などに感謝し食べ物を大切にすることになった。

本事業の成果

- 体験を伴うさまざまな事業を行うことができた。
- 保護者の方も学校での食育の取組の関心を持ち、協力を得ることができた。
- 給食物資納入業者であるみそ製造業の方から、実際にみそづくりを学ぶことにより、日本の伝統的な調味料のみそに関心を持つとともに、地域の方に支えられて給食を食べることができているということに気づかせることができた。
- 米づくりを行うことで稲作の大変さを知ることができた。
- 米、みそ、そしてみそ汁に必要な「だし（うまみ）」と関連づけて学習することができ、日本の伝統食についての理解を深めることができた。
- 地域の食材を使用した調理の体験を数多く行うことで地域の産物に興味をもち、自分たちで調べてみようとする行動につながった。
- 学校での食育の取組を地域の方々が知るにより、地域の保健推進員の研修会に呼んでいただき、朝ごはんの必要性、よりよい生活習慣の大切さについて説明することができた。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- 保護者の食に関する意識が向上する啓発の在り方。
 - ・朝ごはんの必要性、地域の食材の大切さなど理解はしているが、家庭での実践に直結しているとは言い難い。継続して働きかけていく必要がある。
- 児童の継続性
 - ・さまざまな体験を行ったあともすぐには実践したりしているが、すぐに忘れるのか継続しない。毎回、毎回新しいことを行っていると思っているので繰り返しの指導が必要である。
- 事業について
 - どの学年にも同じような体験をさせたいが校内の予算が限られているため難しい。本事業は食育の実践にとっても有効な事業だと思う。